

1. 目的

ICT の利活用によって、本学の学生が目標を明確に意識して主体的に学修に取り組み、その成果を自身で適切に評価し、さらに必要な学びに踏み出していくことができるように、環境・組織・方針等を整備することを目的として全学的な計画を策定する。なお、この計画は自己点検評価に基づく修正や見直しによって改訂される。

2. 環境の整備

本学では、ネットワーク環境は整備され（全ての教室で安定した Wi-Fi 通信が可能）、通信による学修や課題作成提出等に必要なパソコンを全学生が携帯し（BYOD）、パソコンによる自習環境も整備されている（ラーニングコモンズや図書館）。しかしながら、充電設備は設置されておらず、学生個人のパソコンから直接印刷できるが有償であるため、より最適な環境を学生に提供することを計画する。また、本学の学修支援システムは、科目登録や学修データ提示のためのポータルサイト、学修コンテンツ利用と課題提出・テスト受験のための LMS、学生のオフィスツールとオンライン授業のための MS365 が導入されているが、相互にリンクしていないため、学生により円滑な学修のために 3 つのシステムを利便性の高い形で連携することを計画する。

3. 技術支援・教育支援体制の整備

本学 IR・情報室及び ICT 教育部会が、学生及び教職員の ICT を活用した教育活動並びに新しい取組みを支援する。

4. 情報セキュリティへの対応

(1) 情報に関わる規程類の整備とインシデント対応

情報格付けに基づいて各種情報の取り扱い方法に関する規程を整備する。また、インシデント発生時の対応手順を整備し、被害の最小化、迅速な復旧、再発防止に努める。

(2) 学生及び教職員への情報セキュリティ教育

学生には、オリエンテーション及び授業を通じて、日常生活や授業で扱う情報端末、アプリ、情報の適切な扱い方、また、セキュリティ脅威とその防止策を提供する。また、教職員には研修会等を通じて、機密情報や個人情報の取り扱い方法、著作権の取り扱い、セキュリティ脅威とその防止・対応策を提供する。

5. DX による教育の質的転換支援に係る取組

(1) DX による学修者本位の学修の実現

- ① DP 到達度を学修ポートフォリオに提示して、学生も教員も DP 到達度を確認できるようにする。
- ② D 登録 P 到達度を科目履修と学年進行に応じて積み上がる形にその計算式を修正して、学生が成長を実感できるようにする（進路・進学先等との関連も検討して DP 到達度の妥当性を検証する）。
- ③ 多様な活動のレポート等も記録・可視化して振り返りができるようにシステムを構築する。

（アウトプット指標）

ア. 教員への教育相談（学生アンケート項目：評定 1～4）

・「教員に授業内容や学修方法について質問・相談した」の評定 3・4 の学生の割合が **50%以上**

・「科目履修や資格取得に関する教育相談やサポートの満足度」の評定 3・4 の学生の割合が **90%以上**

イ. 学生の学修ポートフォリオにおける学修計画・評価入力の登録数（**在籍数×2（前・後期）**）

（**100%**）

（アウトカム指標）

ア. 学生の成績（GPA2.00 未満が学生全体の **7%以下**）

(2) DX による効果的で質の高い学修の実現

- ① 学修支援ツールとして、学生が学習相談、要約・翻訳、レポート作成補助、アイデアの創造のために AI を使用する方法を提供する。
- ② 教育支援ツールとして、教員が教材・問題作成や学習データ分析のために AI を使用する方法を提供する。
- ③ AI のリスクを想定し、AI の使用に関わる全学的なガイドラインや授業形態ごとの方針を提示する。

（アウトプット指標）

ア. AI の使用に関わる内容を含む授業科目数* （*指標の計測方法について検討中）

イ. 学生の AI の効果的活用の程度*

（アウトカム指標）

ア. AI を用いた学修に対する満足度*

6. 学内全体の教育 DX に関わる管理体制

(1) 教育 DX 計画

計画進捗をチェックする全学的な学内体制は、「教務委員会・ICT 教育部会」とする。

(2) 学修者本位の学修の実現のための取組みに関わる評価体制

各取組と指標の進捗については、「教務委員会・ICT 教育部会」で確認・報告する。評価については、学内及び学外の学識経験者及び産業界等に所属する者で構成された「内部質保証推進会議」が評価する。